

専門家によるモニタリングコメント・意見【感染状況】

モニタリング項目	グラフ	10月27日 第105回モニタリング会議のコメント
		<p>このモニタリングコメントでは、過去の流行を表現するために、便宜的に東京都における第1波、第2波、第3波、第4波、第5波、第6波及び第7波の用語を以下のとおり用いる。</p> <p>第1波：令和2年4月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第2波：令和2年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第3波：令和3年1月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第4波：令和3年5月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第5波：令和3年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第6波：令和4年2月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第7波：令和4年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波</p>
		<p>世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスの変異株の呼称について、差別を助長する懸念から、最初に検出された国名の使用を避け、ギリシャ語のアルファベットを使用し、イギリスで最初に検出された変異株については「B.1.1.7 系統の変異株（アルファ株等）」、インドで最初に検出された変異株については「B.1.617 系統の変異株（デルタ株等）」、南アフリカで最初に報告された変異株については「B.1.1.529 系統の変異株（オミクロン株等）」という呼称を用いると発表した。国も、同様の対応を示している。</p> <p>このモニタリングコメントでは、以下、B.1.1.529 系統のオミクロン株等については「オミクロン株」とする。また、その下位系統として、BA.1 系統、BA.2 系統、BA.2.12.1 系統、BA.2.75 系統、BA.3 系統、BA.4 系統、BA.4.6 系統、BA.5 系統及び BF.7 系統が位置付けられている。</p>
① 新規陽性者数	①-1	<p>新型コロナウイルス感染症陽性患者の全数届出の見直しにより、令和4年9月26日の診断分からは、医療機関及び東京都陽性者登録センターから報告のあった年代別の新規陽性者数の合計を、新規陽性者数として公表している。</p> <p>新規陽性者数は、都内の空港・海港検疫にて陽性が確認された例を除いてモニタリングしている（今週10月18日から10月24日まで（以下「今週」という。）に検疫で確認された陽性者は15人）。</p> <p>(1) 新規陽性者数の7日間平均は、前回10月19日時点（以下「前回」という。）の約3,397人/日から、10月26日時点で3,305人/日となった。</p> <p>(2) 新規陽性者数の今週先週比が100%を超えることは感染拡大の指標となり、100%を下回ることは新規陽性</p>

モニタリング項目	グラフ	10月27日 第105回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>者数の減少の指標となる。今回の今週先週比は約97%となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 新規陽性者数の7日間平均は、前回の約3,397人/日から、10月26日時点で3,305人/日と、横ばいとなった。今週先週比も前々回の約72%から、前回の約125%、今回は約97%と、100%前後で推移しており、今後の動向を注視する必要がある。</p> <p>イ) 職場や教室、店舗等、人の集まる屋内では、定期的な換気を励行し、3密（密閉・密集・密接）の回避、人と人との距離の確保、不織布マスクを場面に応じて適切に着用すること、手洗いなどの手指衛生、状況に応じた環境の清拭・消毒等、基本的な感染防止対策を徹底することにより、新規陽性者数をできる限り抑制していく必要がある。</p> <p>ウ) 発熱や咳、咽頭痛等の症状があるなど、新型コロナウイルスに感染したと思ったら、まず、外出、人との接触、登園・登校・出勤を控え、症状が軽い場合は、余裕をもって、かかりつけ医、発熱相談センター、#7119又は診療・検査医療機関に電話相談し、特に、症状が重い場合や、急変時には速やかに医療機関を受診する必要がある。</p> <p>エ) 療養期間中の外出については、有症状の場合、症状軽快から24時間経過後までは自粛が求められていることから、常備薬（市販薬）、解熱鎮痛薬等や食料品等を少し多めに備えることが必要である。</p> <p>オ) 東京都新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイトによると、10月25日時点で、東京都の3回目ワクチン接種率は、全人口では64.6%、12歳以上では70.9%、65歳以上では89.7%となった。また、65歳以上の4回目ワクチン接種率は、前回の77.2%から77.7%となった。</p> <p>カ) オミクロン株対応ワクチンは、現在の流行の主体であるオミクロン株BA.5系統に対して、従来型のワクチンを上回る効果が期待できるとされており、都内の区市町村や都の大規模接種会場では、2回目までのワクチン接種を終えた12歳以上の全ての方を対象として、オミクロン株対応ワクチンの接種を実施している。また、国は、オミクロン株対応ワクチンの接種間隔を5か月から3か月に短縮するとともに、生後6か月から4歳までの乳幼児向けのワクチンを特例承認し、5歳以上とされていた初回接種の対象を拡大した。都内においても、一部の区市町村から順次、接種を開始している。</p> <p>キ) 今冬は、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症との同時流行が懸念されており、これらの流行状況に注意が必要である。同時流行が始まる前に、新型コロナウイルスに対するワクチンとともに、イン</p>

モニタリング項目	グラフ	10月27日 第105回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>フルエンザワクチンの早期の接種を呼び掛ける必要がある。</p> <p>ク) 10月11日から入国制限が大幅に緩和された。今後の感染状況に注意するとともに、外国人観光客が陽性となった場合などでは、「外国人観光客の受入れ対応に関するガイドライン(観光庁)」に準じた対応が必要である。</p> <p>ケ) 米国では、流行の主体はオミクロン株 BA.5 系統であるものの、オミクロン株の亜系統である「BA.4.6 系統」及び「BF.7 系統」の割合が上昇しており、今後の動向を注視していく必要がある。都では、東京都健康安全研究センターにおいて、これらの亜系統にも対応した新たな変異株 PCR 検査を実施している。</p>
	①-2	<p>今週の報告では、10歳未満9.7%、10代12.9%、20代16.2%、30代16.7%、40代17.4%、50代14.1%、60代6.0%、70代4.0%、80代2.3%、90歳以上0.7%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 新規陽性者数に占める割合は、40代が17.4%と最も高く、次いで30代が16.7%となった。行動が活発な20代から40代が依然として高い割合を示しており、今後の動向を注視する必要がある。</p> <p>イ) 若年層及び高齢者層を含めたあらゆる世代が感染によるリスクを有しているという意識を、都民一人ひとりがより一層強く持つよう、改めて啓発する必要がある。</p>
	①-3 ①-4	<p>(1) 新規陽性者数に占める65歳以上の高齢者数は、先週(10月11日から10月17日まで(以下「先週」という。))の1,755人から、今週は2,008人となり、その割合は8.9%となった。</p> <p>(2) 65歳以上の新規陽性者数の7日間平均は、前回の約294人/日から、10月26日時点で301人/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 新規陽性者数が横ばいとなる中、65歳以上の高齢者数は、今週も先週に続き増加している。高齢者は、重症化リスクが高く、入院期間も長期化するため、引き続き今後の動向に注意する必要がある。</p> <p>イ) 医療機関での入院患者や高齢者施設等における入所者も、基本的な感染防止対策を徹底・継続する必要がある。</p>
	①-5	<p>第6波以降、新規陽性者数の7日間平均が最も少なかった6月14日を起点とし、10月16日までに都に報告があった新規の集団発生事例は、福祉施設(高齢者施設・保育所等)2,150件、学校・教育施設(幼稚園・学校等)93件、医療機関258件であった。</p> <p>【コメント】</p>

モニタリング項目	グラフ	10月27日 第105回モニタリング会議のコメント
		今週も複数の高齢者施設等で、施設内感染の発生が報告されており、基本的な感染防止対策を継続する必要がある。
② #7119 における発熱等相談件数	①-6	<p>都内の医療機関から報告された新規陽性者数の保健所区域別の分布を人口 10 万人当たりで見ると、区部の中心部が高い値となっている。</p> <p>#7119 の増加は、感染拡大の予兆の指標の 1 つとしてモニタリングしてきた。都が令和 2 年 10 月 30 日に発熱相談センターを設置した後は、その相談件数の推移と合わせて相談需要の指標として解析している。</p> <p>②</p> <p>(1) #7119 における発熱等相談件数の 7 日間平均は、前回の 61.7 件/日から、10 月 26 日時点で 59.6 件/日となった。また、小児の発熱等相談件数の 7 日間平均は、前回の 37.3 件/日から、10 月 26 日時点で 26.4 件/日となった。</p> <p>(2) 都の発熱相談センターにおける相談件数の 7 日間平均は、前回の約 1,208 件/日から、10 月 26 日時点で約 1,179 件/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>#7119 における発熱等相談件数及び都の発熱相談センターにおける相談件数の今後の動向を注視するとともに、感染拡大に備え、発熱相談センターの更なる体制の拡充について検討する必要がある。</p>
③ 検査の陽性率 (PCR・抗原)	③	<p>PCR 検査・抗原検査 (以下「PCR 検査等」という。) の陽性率は、感染状況をとらえる指標として、モニタリングしている。なお、抗原定性検査キット等による自主検査で陽性となり、東京都陽性者登録センターへ登録した方は、陽性率の計算に含まれていない。</p> <p>行政検査における 7 日間平均の PCR 検査等の陽性率は、前回の 17.8% から、10 月 26 日時点で 18.2% となった。また、7 日間平均の PCR 検査等の人数は、前回の約 10,707 人/日から、10 月 26 日時点で約 10,205 人/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 検査の陽性率は、前回に続き、今回も 18.2% と、高い水準のまま横ばいとなった。この他にも、把握されていない感染者が存在していると考えられる。</p> <p>イ) 都は、抗原定性検査キットを全年代の「濃厚接触者」及び「有症状者」を対象に、無料配付している。また、今後の感染拡大に備え、配付を待たずに早期に検査ができるよう、検査キットを事前に薬局等で個人購入し、備蓄しておく必要がある。</p>

モニタリング項目	グラフ	10月27日 第105回モニタリング会議のコメント
		ウ) 都は、都内在住の医療機関の発生届の対象者（65歳以上の者、妊婦、入院を要する者、新型コロナウイルス感染症の治療薬や酸素投与を要する者）以外で自主検査陽性の方又は医療機関で陽性の診断を受けた方の登録を受け付ける「東京都陽性者登録センター」を10月20日から24時間体制に拡大して運営しており、今週は4,103人が報告されている。

専門家によるモニタリングコメント・意見【医療提供体制】

モニタリング項目	グラフ	10月27日 第105回モニタリング会議のコメント
	医療提供体制の分析（オミクロン株対応）	<p>オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析は以下のとおりである。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症のために確保を要請した病床の使用率は、前回の 19.6% (1,037 人/5,283 床) から、10月26日時点で 22.9% (1,209 人/5,283 床) となった。</p> <p>(2) オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、前回の 6.0% (25 人/420 床) から、10月26日時点で 7.6% (32 人/420 床) となった。</p> <p>(3) 入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合は、前回の 16.6% (183 人/1,100 人) から、10月26日時点で 15.0% (196 人/1,310 人) となった。</p> <p>(4) 救命救急センター内の重症者用病床使用率は、前回の 67.5% (439 人/650 床) から、10月26日時点で 69.6% (453 人/651 床) となった。</p> <p>(5) 救急医療の東京ルール適用件数は、83.3 件/日となった。</p>
④ 救急医療の東京ルール適用件数	④	<p>東京ルール適用件数の7日間平均は、前回の 86.4 件/日から、10月26日時点で 83.3 件/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 東京ルール適用件数の7日間平均は、依然として高い値で推移しており、救急医療体制が未だ影響を受けている。</p> <p>イ) 救急搬送においては、救急車の現場到着から病院到着までの時間が、新型コロナウイルス感染症流行前の水準と比べると、依然延伸したまま推移している。</p>
⑤ 入院患者数		<p>重症・中等症の入院患者数のモニタリングを一層重点化するため、その時点で病床を占有している入院患者数に加え、酸素投与が必要な患者数（重症患者は含まない）をモニタリングしている。</p> <p>なお、国による全数届出の見直しに伴い、令和4年9月27日以降の自宅療養者等の数は、国への療養状況等の調査報告に準じて、直近1週間の新規陽性者数の合計から入院患者数及び宿泊療養者数を差し引いた数による推計値を用いている。</p>
	⑤-1	<p>(1) 10月26日時点の入院患者数は、前回の 1,100 人から 1,310 人に増加した。</p> <p>(2) 10月26日時点で、入院患者のうち酸素投与が必要な患者数は、前回の 183 人から 196 人となり、割合は前回の 16.6% から 15.0% となった。</p>

モニタリング項目	グラフ	10月27日 第105回モニタリング会議のコメント
⑤ 入院患者数		<p>(3) 今週新たに入院した患者数は、先週の491人から607人となった。また、入院率は2.7% (607人/今週の新規陽性者数22,502人)であった。</p> <p>(4) 都は、各医療機関に要請する病床確保レベルをレベル1 (5,283床)としており、10月26日時点で稼働病床数は3,969床、稼働病床数に対する病床使用率は33.0%となっている。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 前回横ばいとなった入院患者数は、今回は増加した。今週新たに入院した患者数も先週と比べて増加しており、今後の医療提供体制への影響を注視する必要がある。</p> <p>イ) 今冬は、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症との同時流行が懸念されており、発熱外来、オンライン診療の拡充など、医療提供体制を強化していく必要がある。</p> <p>ウ) 入院調整本部への調整依頼件数は、10月26日時点で61件となった。</p>
	⑤-2	<p>10月26日時点で、入院患者の年代別割合は、80代が最も多く全体の約31%を占め、次いで70代が約20%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>入院患者のうち重症化リスクが高い60代以上の高齢者の割合は、約76%と高い値のまま推移しており、今後の動向を注視する必要がある。</p>
	⑤-3	<p>(1) 10月26日時点で、検査陽性者の全療養者のうち、入院患者数は1,310人 (前回は1,100人)、宿泊療養者数は931人 (同850人)であった。</p> <p>(2) 10月26日時点で、自宅療養者等 (入院・療養等調整中を含む) の人数は20,908人、全療養者数は23,149人であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 発生届対象外の患者は、東京都陽性者登録センターに登録することで、「MyHER-SYS」による健康観察、食料品やパルスオキシメーターの配送、都の宿泊療養施設等への入所など、療養生活のサポートが受けられることを、都民に周知する必要がある。</p> <p>イ) 都は、東京都医師会・東京都病院協会の協力を得て、現在、32か所の宿泊療養施設を運営しており、9月30日に宿泊療養施設の稼働レベルをレベル1に引き下げた。今後、各施設の一部フロア休止等を行い、確保している約13,000室を、約9,000室に変更して対応していく。</p>

モニタリング項目	グラフ	10月27日 第105回モニタリング会議のコメント
		<p>東京都は、重症者用病床の利用状況のモニタリングを一層重点化するため、重症患者数（人工呼吸器又は ECMO を使用している患者数）及びオミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床に入院する患者数（特定集中治療室管理料又は救命救急入院料を算定する病床の患者数及び人工呼吸器又は ECMO の装着又はハイフローセラピーを実施する患者数の合計）も併せてモニタリングしている。</p> <p>人工呼吸器又は ECMO を使用した患者の割合の算出方法：6月14日から10月24日までの19週間に、新たに人工呼吸器又は ECMO を使用した患者数と、6月14日から10月17日までの18週間の新規陽性者数をもとに、その割合を計算（感染してから重症化するまでの期間を考慮し、新規陽性者数を1週間分減じて計算）している。</p>
⑥ 重症患者数	⑥-1	<p>(1) 重症患者数（人工呼吸器又は ECMO を使用している患者数）は、前回の11人から10月26日時点で17人に増加した。年代別内訳は、10歳未満2人、10代1人、30代1人、40代2人、50代4人、60代2人、70代2人、80代3人である。性別は、男性13人、女性4人であった。また、重症患者のうち ECMO を使用している患者は1人であった。</p> <p>(2) 人工呼吸器又は ECMO を使用した患者の割合は0.02%であった。年代別内訳は40代以下0.01%、50代0.02%、60代0.06%、70代0.17%、80代以上0.12%であった。</p> <p>(3) 今週、新たに人工呼吸器又は ECMO を装着した患者は11人（先週は8人）、離脱した患者は6人（同3人）、使用中に死亡した患者は1人（同6人）であった。</p> <p>(4) 今週報告された死亡者数は33人（30代1人、40代3人、50代1人、60代3人、70代3人、80代15人、90代7人）であった。10月26日時点で累計の死亡者数は5,986人となった。</p> <p>(5) 今週、人工呼吸器を離脱した患者の、装着から離脱までの日数の中央値は4.5日、平均値は8.7日であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>高齢者のみならず、ワクチン未接種者、肥満、喫煙歴のある人は若年であっても重症化リスクが高まることが分かっている。また、感染により、併存する他の疾患が悪化するリスクや治療に影響を与える可能性を有していることを啓発する必要がある。</p>
	⑥-2	<p>(1) オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数は、前回の25人から10月26日時点で32人となった。年代別内訳は10歳未満2人、10代1人、30代1人、40代3人、50代5人、60代4人、70代5人、80代9人、90歳以上2人である。</p> <p>(2) オミクロン株の特性を踏まえた重症患者32人のうち、10月26日時点で人工呼吸器又は ECMO を使用して</p>

モニタリング項目	グラフ	10月27日 第105回モニタリング会議のコメント
⑥ 重症患者数		<p>いる患者が17人（前回は11人）、ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者が9人（同8人）、その他の患者が6人（同6人）であった。</p> <p>【コメント】 オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数は10週間連続して減少していたが、今回は前回と比べ増加した。病床使用率は10%を下回って推移しているものの、今後の動向に注意が必要である。</p>
	⑥-3	<p>今週新たに人工呼吸器又はECMOを装着した患者は11人であり、新規重症患者数の7日間平均は、前回の1.0人/日から、10月26日時点で1.7人/日となった。</p>